

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年10月分】

1. 実施した活動の概要・状況

7月から地域おこし協力隊に入隊してから3ヶ月が経過した。自分自身で提案した川のガサガサイベントをはじめ、川内川から「かわうち・まりん・ビーチ」までの航路を利用したカヤックやSUPの観光事業のモニタリングツアー、むつ市ゲートウェイフェスティバルのお手伝いなど、より多くの人と関わることができていると感じている。地域おこし協力隊として、求められていることが何かを探るために活動に努めた。

地域おこし協力隊の中でも、脇野沢地区担当ということで、脇野沢地区で自分がどう動いていけば良いのか、考えることが増えた。実際に脇野沢地区へ足を運び、地域の人と関わる機会を自分から増やすように努めた。現場の作業では「人手不足」「やる気がある若者がいない」などの声を聞き、自分の役割を模索している。今後、いろいろ試して、自分にできることを増やして、地域の活性化に貢献していきたいと考える。

（主な活動）

◇10月8日（土）～9日（日）川内町観光事業創生モニタリングツアー

8日（土）は、けいらん作り、川内川渓谷遊歩道散策、安部城鉱山跡登山、ふれあい温泉入浴

9日（日）は、於法岳散策、SUPカヤック川下り

を実施した。お客様としてではなく提供する側として、送迎や荷物の運搬、先回りなどお客様のために効率の良さを考えながら行動することを学ぶことができた。どういう流れで、どう動けば良いのか、事前に何をしなければいけないのかなど予測の引き出しをたくさん知ることができた。

この企画で人を呼ぶ素材はあるものの、滞在させることが難しいという側面も学ぶことができた。例えば、宿泊場所の少なさやお酒を飲める居酒屋などが近くにないことなど、解決するのに困難なものも考えられた。これらを解決するためには、川内町だけでなく、周りの地域との連携や、ツアー企画の中での実施等の手段が必要となる。そのためにはカヤックやSUPなどの運搬しやすさなど、解決しないといけない課題も見つかった。お客様第一でどのくらいできるのかを今後考えていきたい。



◇10月16日(日) 川のがさがさイベント

湯野川の濃々園の前に流れている河川で、がさがさイベントを実施した。川の生き物を採集、調査し、生き物の生息確認からその河川の水質を予測する、指標生物調査の協力が環境省からあったので、それも兼ねて開催した。当日はいろいろなイベントが重なり、参加者は見込めなかったものの、ケガすることなく無事に終わることができた。がさがさイベントでは実際に河川に入り、水際のアシの根本を網でガサガサしたり、足で追い立てながら網に誘導したりして生息している生き物を採集した。河川からはカワニナやヤゴ、イワナやヤマメ、水生昆虫など多数の生き物を観察することができた。指標生物調査の基準からすると、とてもきれいな川であることが分かった。

今回のイベントで、より良い募集の仕方と実施日の設定の仕方を学ぶことができた。また、今回のイベントを開催するにあたり、地域の方々と交流し、新たなつながりを作ることができた。次回の開催、複数回の開催も快く承諾していただくことができた。このイベントを通じて、地域の方々にもプラスとなるような流れを作りたいと考える。



◇10月24日(月) ホタテ養殖の体験

脇野沢地区内での仕事を体験して地域の方々と交流を深めたいと考えている。そこで、脇野沢地区に行き、焼き干し体験でお世話になっている漁師さんのもとで、ホタテ養殖の仕事の一部も体験をさせていただいている。

個人的に海が好きということもあり、海の仕事を経験することに楽しさを感じている部分があるためか、川内でも脇野沢でも漁師さんの船に乗らせていただく機会が多い。川内と脇野沢での漁の違いを見るとともに、地域の方とさらに深く交流ができるようにするためにも、今後も続けていきたいと考える。



2. 翌月の活動予定

11月は雪が降り始める季節であるため、体調管理に気を付けつつ、冬のアクティビティや企画に取り組んでいきたいと考える。また、脇野沢での焼き干し体験も、本格的に「焼く」「干す」作業に入っていくため、自分だけでなく、周りの人も巻き込んで体験に行こうと考えている。経験値を増やし、人手不足の問題を解決する策を模索していきたい。

11月 4日 川内中学校での講義

11月10日 継業講演会 参加